
続きを読む

純

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

続きにあるものは

【Zコード】

Z94140

【作者名】

純

【あらすじ】

彼女と友人のいつもの日常会話

ガールズトークってこんな感じです
たぶん…

美人セミとの恋愛（前書き）

恋が始まるまでのヒストロマ（嘘）

本当は彼女と友達の夢の無い会話

思いついたら更新していくのでのんびりです。

今までのお話とは全然違つので苦手な方はご注意ください。

美人さんとの恋愛

自分に自信が無かつた…

でも、こんな私でもいつか自分だけの王子様がきっと…

「つてあるわけないじゃん。」

鈴本有は小説を立ち読みしつつつぶやいた。

その一言を聞いた友人、結城美穂は呆れた顔をして返事をした。

「あんた、夢ないねー。」

「そうかな? だつて実際ありえないでしょ。
どにこんなイケてる面が転がつてるよ。」

「うつわー…

なんとも返答しづらい事を。」

「大丈夫! 美穂もなかなか夢ないよ。」
「嬉しくねー。」

そうだ、あんたの会社にイケてる面が入社したって言つてたじやん。

それはどうよ。」

「あーあれね、観賞用。」

「なにそれ? 彼女がいるってこと?」

「そこまでは知らないけど、好きになるタイプの顔じゃないんだよ
ね。」

客観的にみてかっこいいって感じ。」

「納得。そういえば、有のタイプってどんなのよ?
昔と変わつてないの?」

有は立ち読みしていた本を置いて、本来の目的だつた本を手に取り

レジに向かった。

美穂もそのあとに続いた。もちろん話を続けたままだ。

「タイプかー…。一言で言うとパンダですかね。」

「……丸々としたかわいい感じ。」

もしくは本当は色白でも焼けているスポーツマン。」

「あんたすごいよ。パンダだけでそこまで考えられるのって才能だよ。」

「それはどうも。で、どうい?」

「正解は、かわいいと思わせて実は鋭い眼。」

黒だと思っていた尻尾が実は白。ってかんじです。

まあ早い話が意外性がある男ってこと。」

「分かりづらいたとえだなー。」

レジにつき、本を店員に渡して会計を始める。財布を鞄から出している間も彼女たちの話は続く。

「明快な回答だと自負していますが。」

「それならまだクマのふーさんは意外とひどい奴って方が分かりやすいんじゃない?」

「へ? 何それ。」

知らないことを言われた有はお金を握ったまま美穂の方に顔を向けた。

そのためレジは進まない。

「あんた、レジ先にやりなよ。」

「あー、すみません。これでようしきをお願いします。」

美穂の助言によりレジはやっと進みだした。

そのまま話を進めないで会計が終わるまで待っていた。

会計が終わり店員から商品が渡された。

「商品とレシートになります。」

「ありがとうございます。」

「ありがとうございました。」

会計が終わり一人は入口に向かつて歩き出した。

「で、パーの続きを！」

「パーって言うなよ。パーさんね。」

「まあどっちでもいいじゃん。」

「うろ覚えだから正確じゃないけど
しつぽを釘でうちつけてたよつな。」

「なにそれ…パー意外と残酷。

声もおっさんぽいし意外性沢山じゃん。」

二人はそのまま入口を出て街へと向かつた。

ここにいた人たちが聞けたのはここまで。
けれど彼女達の話はまだまだ続く。

美人さんとの恋愛（後書き）

くだらない話を最後まで読んで頂きありがとうございます。
ブーさんのくだりは昔にみたのものなのでいつも覚えです。
違っていたすみません。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9414o/>

続きにあるものは

2011年3月21日04時49分発行